

2016年度は、2015年度末ぎりぎりに薬剤師1名（経験者）を確保することができ、はじめて常勤薬剤師7名でスタートをきることができた。事務2名を加え、総勢9名の体制が整ったことで、理想的な活動ができるものと期待していた矢先、熊本大地震が発生した。幸いスタッフへの被害はなく、医薬品・機器・物品等の破損もなく、自主的に登院してくれたスタッフの頑張り、緊急時対応を乗り切ることができた。また、熊本県薬剤師会の要請を受け、災害派遣薬剤師として1名に嘉島地区で1週間活動してもらい、過酷なボランティア環境ではあったが、その貴重な体験や体験談から得たものは、これから薬剤師として、医療人として活動していく上での貴重な財産となった。薬剤師としての資質を試されているような2016年度の幕開けではあったが、医薬品を扱うエキスパートとしての薬剤師の使命を果たすべく、365日勤務体制の確立や、病棟業務へのさらなる関与を推進し「病棟薬剤業務実施加算」の取得も行った。さらに年度末には医療機能評価機構による審査（3rdG）も無事終えることができ、慌ただしさのなかにも充実した1年であった。

2016年度の活動

1. 人材育成

2016年度も、日常業務を遂行しながらの人材育成のため、薬剤師によるマンツーマンでの指導が難しい状況のもと、事務スタッフにも協力してもらいながらチームワークで新入職スタッフおよび若手スタッフの育成に取り組んだ。OJTが中心の指導になるが、ベテラン薬剤師がいつでもサポートできる体制構築を行うとともに、今回の震災への災害活動などを通して、経験から学べる環境作りにも努めた。2016年度も、積極的な活動から得ることができる経験値の重みと、常に考え、自ら答えを導き出そうとする過程の重要性も感じてもらえるよう取り組んだ。

2. 外来対応

外来調剤は2016年度も薬局の中心業務であった。前年度からの継続として、お薬手帳の重要性を理解してもらおうべく、今回の震災時に有効活用された事例等をお伝えし、お薬手帳所有率99%以上を達成することができた。その上で、持参率のアップにも努めるとともに、飲み合わせのチェックなど医薬品の適正使用に大いに貢献できた。今後、さらにお薬手帳の意義を患者さんに伝えながら、「持参率」≒「所有率」となるよう取り組んでいく。また、薬局窓口での対応内容を積極的に電子カルテに記録し続けることで、医師のカルテ記録情報だけでなく、薬剤師の記録内容も参考に、さらなる医薬品の適正使用の推進とアドヒアランスの向上に努めながら、患者さんに寄り添う薬剤師を推進できた。2016年度も患者さんのニーズに可能な限り応えるよう取り組み、手間と時間を要する業務ではあるが、一包化調剤を数多く行い、また、持参薬の再利用による医療資源の有効活用や患者さんの経済負担軽減、並びにコンプライアンス向上にも努めた。

	2016年度	2015年度
一包化調剤（外来）（件）	2,302	2,414

3. 病棟業務

2016年度も若手を病棟担当薬剤師として抜擢し、考える力、予測する力、コミュニケーション能力などなど、経験から学

べる環境作りに取り組んだ。その中で、薬剤師7名体制が軌道に乗り始めた7月に、念願の「病棟薬剤業務実施加算」を取得し、より密度の高い病棟業務活動を推進させることができた。また日曜、祝日の薬剤師日直体制も確立させ、医師、看護師へのサポートをはじめ、リスク管理をはじめとする医薬品の適正使用にも大きく貢献できたものとする。前年度に引き続き、持ち込み薬（持参薬）が非常に多い中で、可能な限りタイムリーに鑑別報告書を作成。その他、医師の処方支援をはじめカルテ記録など、一元化された電子カルテデータの有効活用を推進。NST回診、ICT回診、緩和ケア回診、褥創回診、DM教室等々へも参加し、求められているチーム医療に貢献できたものとする。

	2016年度	2015年度
薬剤鑑別（件）	1,029	919

4. 抗がん剤および高カロリー輸液の無菌調製

抗がん剤の無菌調製を開始して6年目になる。数量は減少しているが、2016年度も1年を通して入院・外来を問わず、全ての抗がん剤の無菌調製を行うことができた。当日の急なオーダーに対しても臨機応変に対応し、特に医師の業務負担軽減（抗がん剤オーダーサポート、前投与薬チェック、副作用予防薬処方支援など）に大いに貢献できたものとする。また、2016年度末からクリーン・ベンチを利用した高カロリー輸液の無菌調製も開始した。

無菌調製（件）	2016年度	2015年度
抗がん剤	144	311
高カロリー輸液	20	0

5. 医薬品ミニレクチャー、出前健康講座および自己啓発

2016年度も、薬剤師が病棟および外来に出向き看護師に対してスモールグループで医薬品に関するミニレクチャーを実施（年3回実施）。地域住民向けの出前健康講座を2016年度は1回開催。そのほか、毎週1回、朝業務開始前に医薬品に関する勉強会（メーカ主催および各薬剤師担当の薬局内勉強会）を継続開催し、日々の研鑽に努めた。また、宇城薬剤師会主催の症例検討会での若手薬剤師による発表も行うなど各自スキルアップに努めた。

6. 医薬品在庫管理および情報提供

後発医薬品への切替を推進し、コスト管理など経営面での貢献と高額医薬品の適正管理や期限切れ医薬品の削減に努めた。医薬品情報データベースにDIニュースをはじめ、看護師向け情報、安全性情報、研修会案内などを掲載し、情報の共有化・一元化に努めた。スタッフがいつでも、どこからでも確認できるよう医薬品情報データベースの改訂・更新を随時行った。

今後の課題と展望

次年度は、実務実習生の受入も予定されており、薬剤師の育成にも注力していくとともに、薬局理念でもある「患者さんを第一に考えた、安心・安全で良質な薬物療法の提供に努めます」を柱に、さらなる医薬品の安全管理と適正使用および人材育成を推進していけるよう取り組んでいきたい。